

平成 2 6 年 滋 賀 県 の 労 働 災 害 発 生 状 況

平成 2 7 年 4 月
滋 賀 労 働 局



労働災害件数は微減、前年比 1.3%減 ～第 3 次産業・建設業で増加 転倒災害が最多～

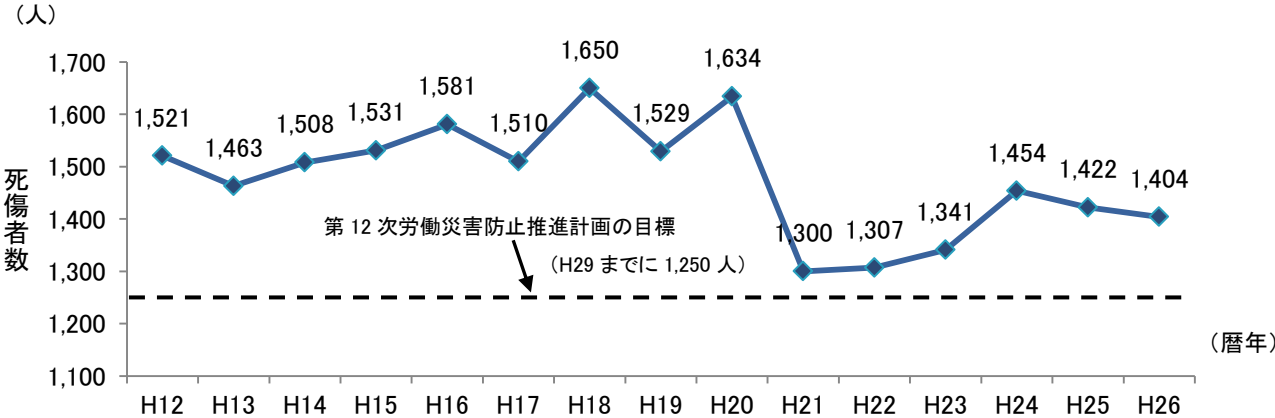
1 概況

① 休業 4 日以上 の 死 傷 災 害 発 生 状 況

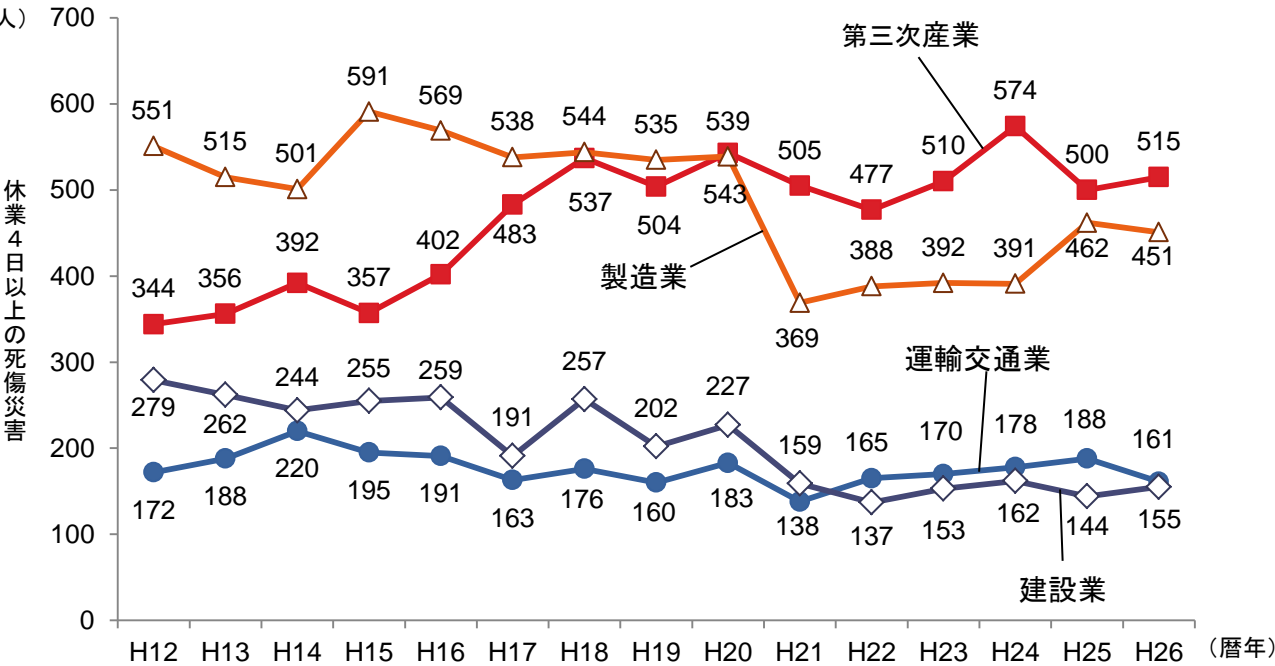
滋賀県内の労働災害による休業 4 日以上 の 死 傷 者 数 は、第 1 図 に 示 す よう に、平成 24 年 を 起 点 と して 2 年 連 続 で 減 少 し、平成 26 年 の 休 業 4 日 以 上 の 死 傷 者 数 は、全 産 業 で 1,404 人 と な り、前 年 に 比 べ 18 人 (-1.3%) の 減 少 と な っ た。な お、2 年 連 続 の 減 少 は 15 年 ぶ り。

業 種 ご と の 内 訳 で は、製 造 業 が 451 人 (前 年 比 -2.4%)、運 輸 交 通 業 が 161 人 (前 年 比 -14.4%) と 減 少 し た 反 面、第 三 次 産 業 が 515 人 (前 年 比 +3.0%)、建 設 業 が 155 人 (前 年 比 +7.6%) と 増 加 し た。

<第 1 図> 休業 4 日以上 の 死 傷 者 数 の 推 移 (全 産 業、過 去 15 年 間)



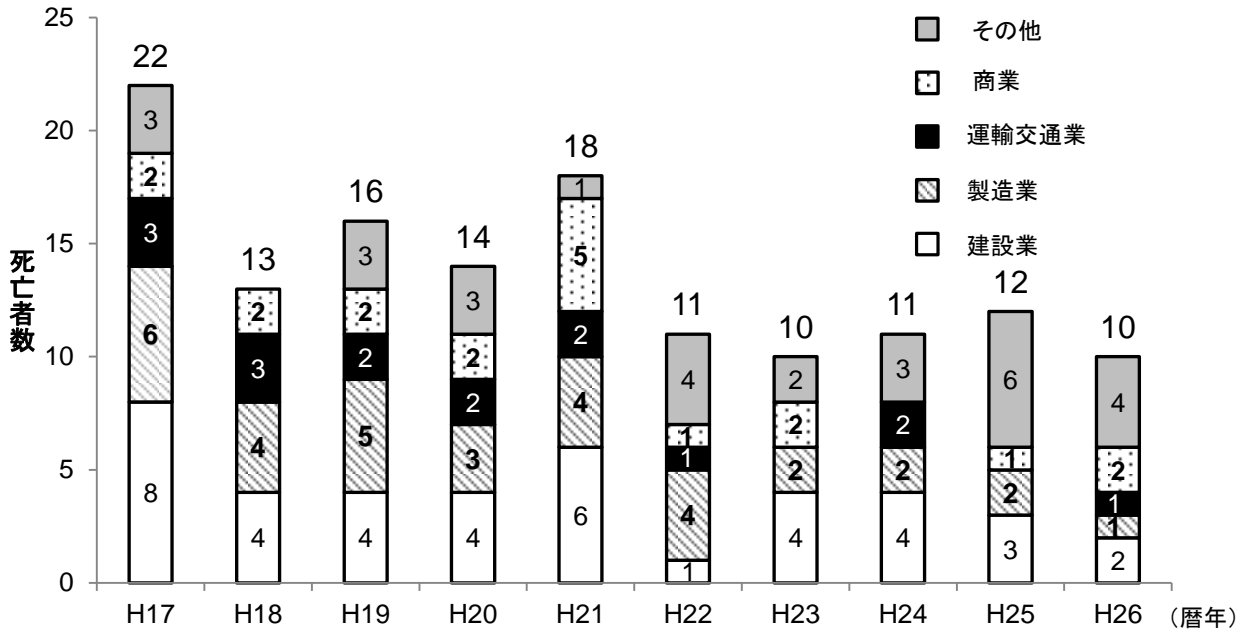
<第 2 図> 休業 4 日以上 の 死 傷 者 数 の 推 移 (業 種 別、過 去 15 年 間)



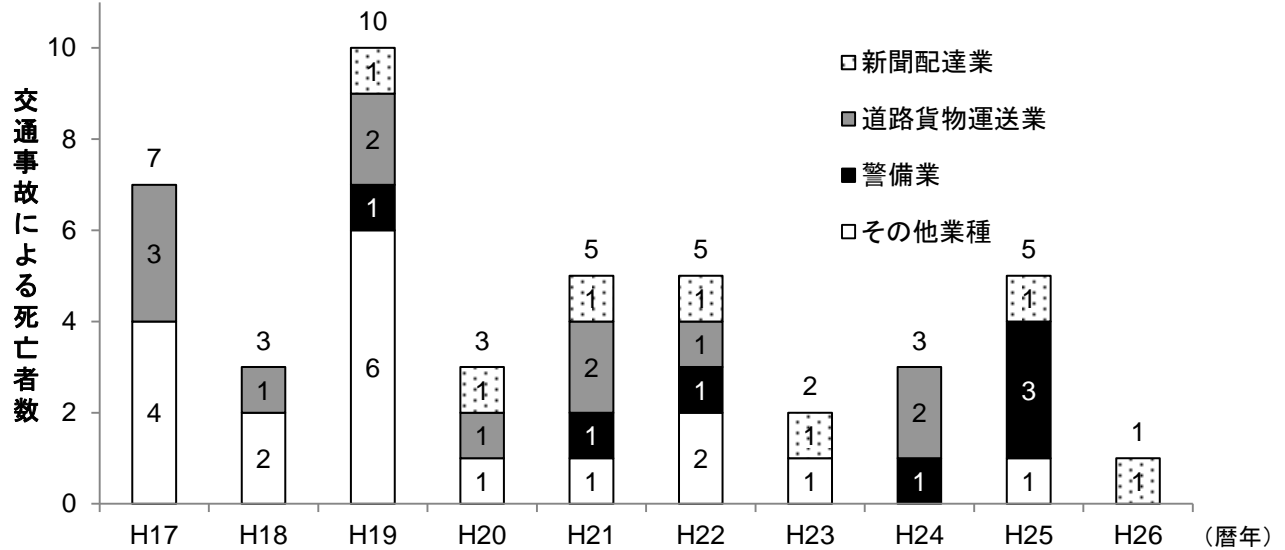
② 死亡災害発生状況

死亡災害は第3図に示すように、ここ数年は増減を繰り返しており、平成26年は10人で、前年に比べ2人減少した。交通事故による死亡者数は、第4図に示すように1人で、前年に比べ4人減少した。なお、交通事故を除いた死亡者数は、平成22年以降で最多の9人だった。

<第3図> 死亡者数の推移（過去10年間）



<第4図> 交通事故による死亡者数の推移（過去10年間）

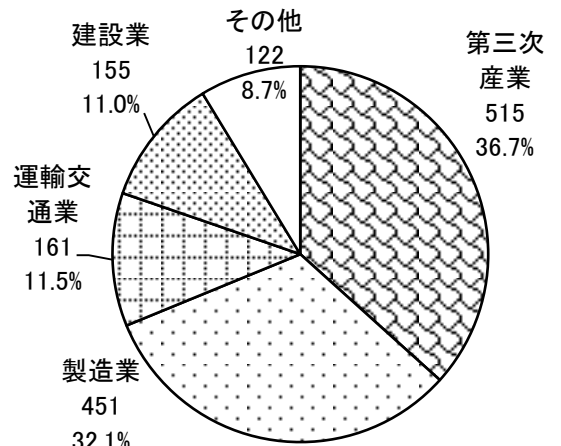


2 業種別の発生状況（平成26年）

① 休業4日以上死傷者数は、第5図に示すように第三次産業の占める割合が36.7%と最も高く、次いで製造業（32.1%）、運輸交通業（11.5%）、建設業（11.0%）の順になっている。

第三次産業の内訳は、515人中、商業（147人）、接客娯楽業（116人）、社会福祉施設（96人）、清掃業（56人）などである。

② 死亡者数は、第3図に示すように、建設業が2人、製造業が1人で、それぞれ前年より1名減少し、運輸交通業が1人、商業が2人（新聞配達、ガソリンスタンド）、その他4人（林業2人、農業1人、ビルメンテナンス業1人）であった。



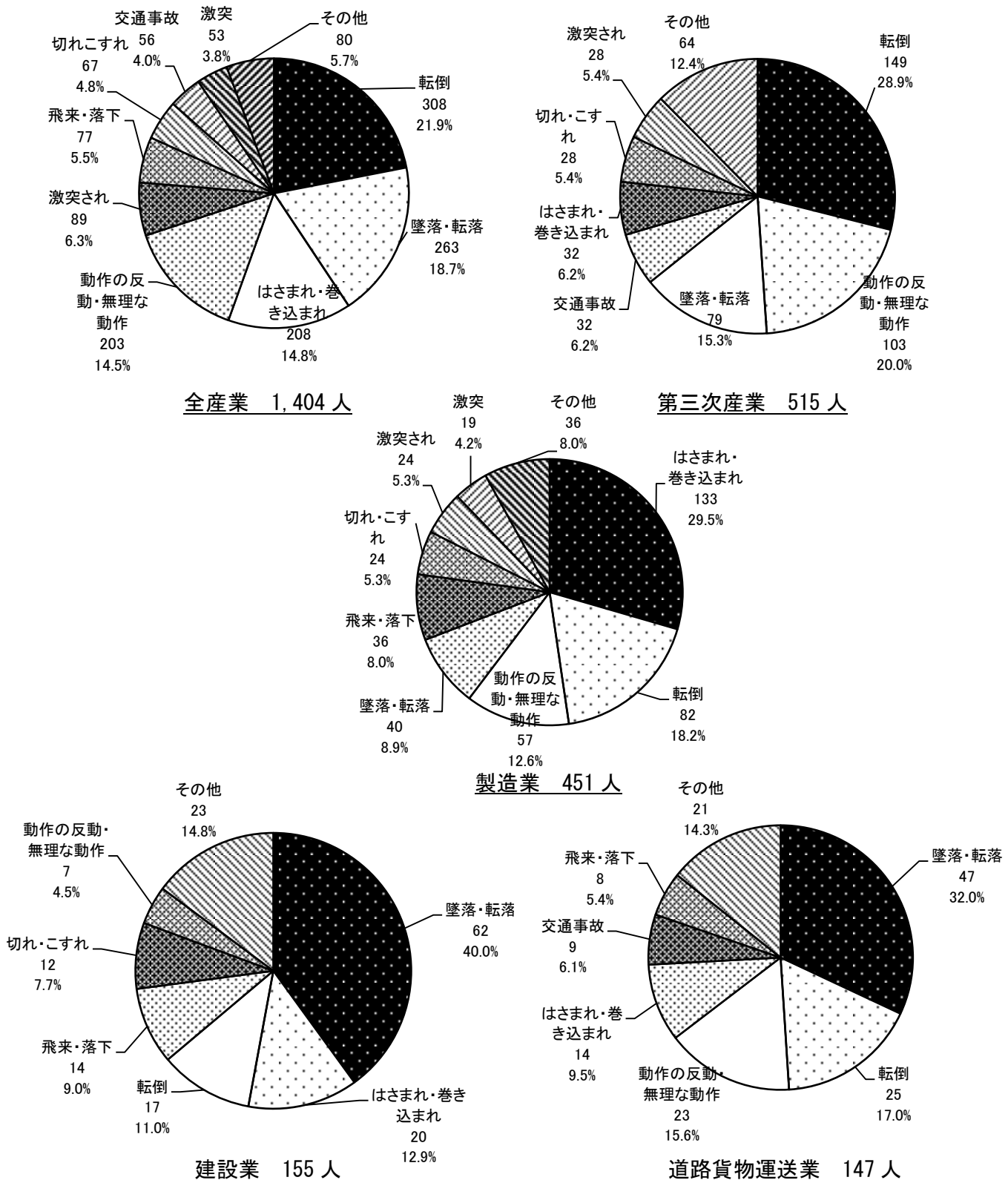
<第5図> 業種別死傷災害
全産業 1,404人

3 事故の型別の発生状況（平成26年）

- ① 全産業の死傷者数を事故の型別で見ると、第6図に示すように「転倒」が21.9%と最も多く、次いで「墜落・転落」が18.7%、「はさまれ・巻き込まれ」が14.8%の順で発生している。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、第三次産業では「転倒」が28.9%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が20.0%、「墜落・転落」が15.3%の順で発生している。製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が29.5%と最も多く、次いで「転倒」が18.2%、「動作の反動・無理な動作」が12.6%の順で発生している。建設業では「墜落・転落」が40.0%と最も多く（労働者死傷病報告の集計を始めた平成11年以降で最高）、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が12.9%、「転倒」が11.0%の順で発生している。道路貨物運送業では「墜落・転落」が32.0%と最も多く、次いで「転倒」「動作の反動・無理な動作」の順に発生している。

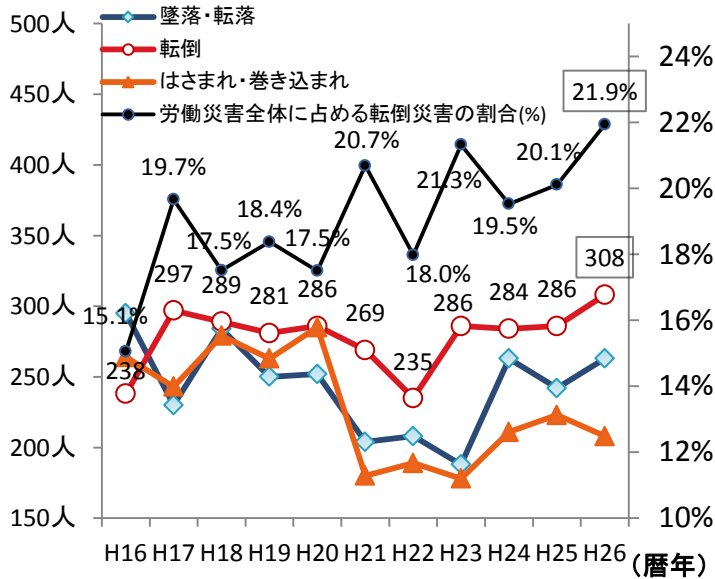
なお、製造業の「はさまれ・巻き込まれ」（133人）と建設業の「墜落・転落」（62人）はいずれも平成21年以降最多である。

＜第6図＞ 事故の型別死傷災害

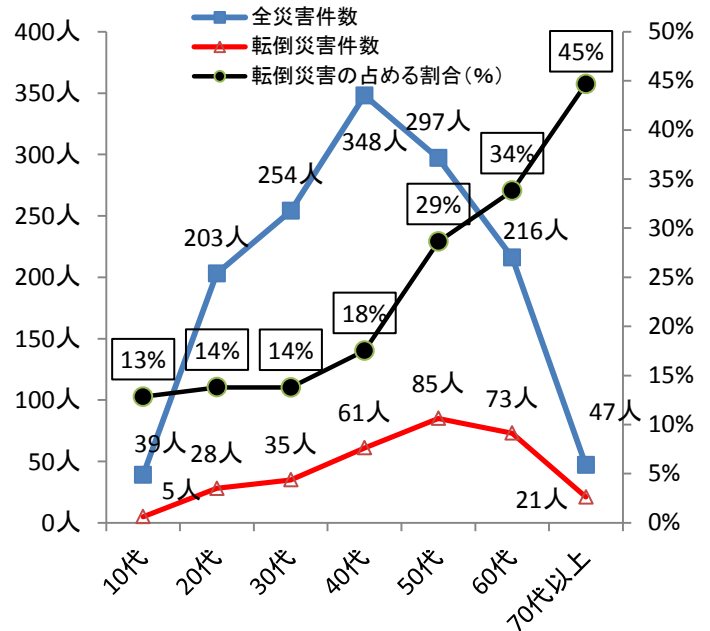


- ③ 死亡災害の事故の型別では、全数 10 人の内、「おぼれ」、「転倒」、「飛来・落下」、「墜落・転落」、「高温・低温の物との接触（熱中症）」、「激突され」、「有害物等との接触（CO 中毒）」、「交通事故」、「破裂」、「その他（いわゆる過労死）」が 1 人ずつ発生している。
- ④ 転倒災害件数は、第 7 図に示すように 308 件となり、労働災害全体が減る中でも、就業者の高年齢化に伴い、労働者死傷病報告の集計を始めた平成 11 年以降、初めて 300 人の大台を超えた。労働災害全体に占める転倒災害の割合は、一貫して増加傾向であり、平成 26 年は、記録の残る平成 6 年以降で最高の 21.9%であった。
- また、平成 26 年における転倒災害 308 件の年代別件数は、第 8 図に示すように、50 代が 85 人と最も多く、次いで 60 代が 73 人、40 代が 61 人となっており、年齢を重ねるほど高くなる傾向にある。

<第 7 図> 転倒災害の件数と全体に占める割合



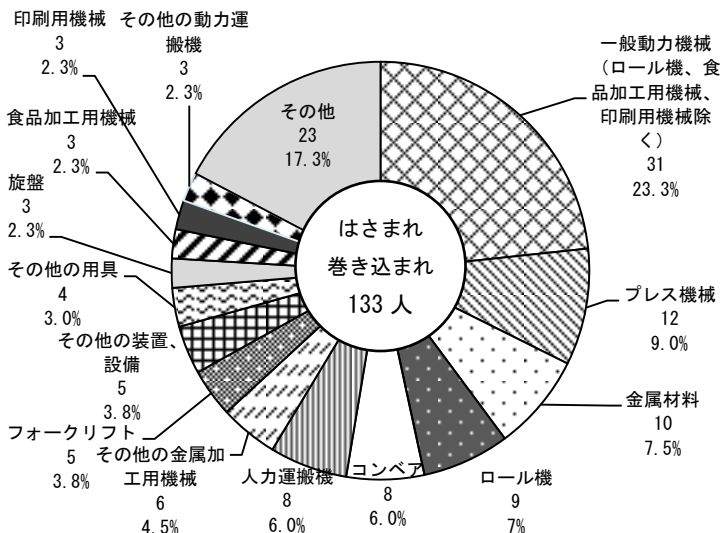
<第 8 図> 年代別災害件数と転倒災害の割合



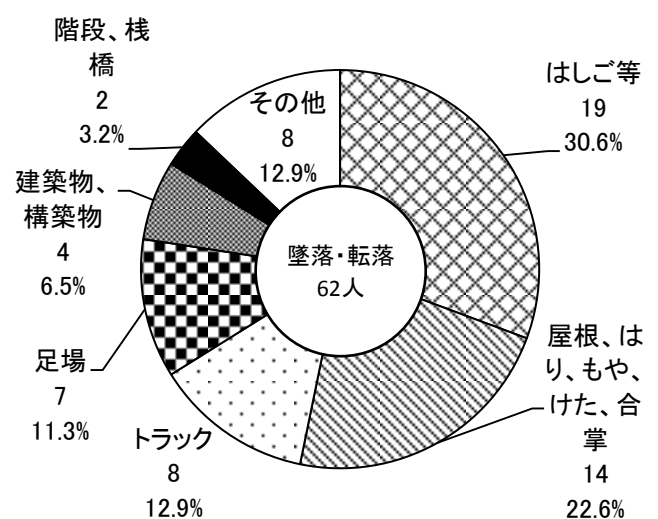
4 起因物別の発生状況（平成 26 年）

- ① 製造業で最も死傷者数の多い「はさまれ・巻き込まれ」133 人を起因物別でみると、第 9 図に示すように「一般動力機械」が最も多く 23.3%を占めている。
- ② 建設業で最も死傷者数の多い「墜落・転落」62 人を起因物別でみると、第 10 図に示すように「はしご等」が最も多く 30.6%を占めている。

<第 9 図> 製造業における、「はさまれ・巻き込まれ」災害の起因物別内訳



<第 10 図> 建設業における「墜落・転落」災害の起因物別内訳



* 休業 4 日以上死傷災害は「労働者死傷病報告」、死亡災害は「死亡災害報告」による。